

「ディスカバー^{むら}農山漁村の宝」 (第9回選定)
選定地区 (案)

令和4年11月7日

「ディスカバー農山漁村の宝」 (第9回選定) 選定地区一覧 (案)

四国

【棚田保全、デジタル化、農村環境・景観保全】

No.28 徳島県 上勝町
かみかつ棚田未来づくり協議会

【水産業、デジタル化】

No.29 徳島県 海陽町
株式会社リプル

【6次産業化、農泊】

No.30 香川県 三木町
株式会社山南宮農組合

【ジビエ、森林・林業、若者の活躍】

No.31 高知県 高知市
高知商業高等学校
ジビエ商品開発・販売促進部

【6次産業化、企業との連携、雇用】

No.32 高知県 四万十町
株式会社四万十ドラマ

中国

【移住・定住、農村環境・景観保全、若者の活躍】

No.23 鳥取県 鳥取市
NPO法人bankup

【農村文化体験、グリーン化、食育・教育】

No.24 島根県 奥出雲町
大石 亘太

【企業との連携、グリーン化】

No.25 岡山県 岡山市
瀬戸内かきからアグリ推進協議会

【6次産業化、棚田保全、農村環境・景観保全】

No.26 岡山県 久米南町
上舂みろく農場協議会

【農業、6次産業化、雇用】

No.27 広島県 三次市
川西自治連合会

近畿

【農泊、農村文化体験、地産地消】

No.20 京都府 伊根町
伊根浦地区農泊推進地区協議会

【農村環境・景観保全、教育機関との連携】

No.21 兵庫県 三木市
東播用水土地改良区

【企業との連携、教育機関との連携、若者の活躍】

No.22 和歌山県 有田川町
有田川町×龍谷大学

関東

【6次産業化、地産地消】

No.09 栃木県 那須町
稲作本店

【雇用、地産地消】

No.10 千葉県 鋸南町
きよなん株式会社

【農村文化体験、棚田保全、農村環境・景観保全】

No.11 長野県 上田市
稲倉の棚田保全委員会

【輸出、棚田保全、雇用】

No.12 長野県 伊那市
株式会社 Wakka Agri

北海道

【農業・水産業、農泊】

No.01 北海道 網走市
オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会

【6次産業化、若者の活躍】

No.02 北海道 士別市
株式会社イナゾーフาร์ม

【地産地消、デジタル化】

No.03 北海道 恵庭市
恵庭かのな協同組合

【農泊、農村環境・景観保全】

No.04 北海道 美瑛町
一般社団法人丘のまちびえい活性化協会

東北

【6次産業化、関係人口の創出】

No.05 岩手県 西和賀町
ユキノチカラプロジェクト協議会

【農村文化体験、移住・定住】

No.06 宮城県 栗原市
一般社団法人はなやまネットワーク

【地産地消、関係人口の創出、6次産業化】

No.07 宮城県 丸森町
八島 哲郎

【復興、6次産業化、輸出】

No.08 宮城県 山元町
株式会社やまもとファームみらい野

九州・沖縄

【農泊、農村文化体験】

No.35 鹿児島県 南九州市
瀬川 知香

【農泊、地産地消、関係人口の創出】

No.36 鹿児島県 龍郷町
一般社団法人E'more秋名

【6次産業化、荒廃農地対策、農福連携】

No.37 沖縄県 今帰仁村
株式会社沖縄UKAMI養蚕

【農村環境・景観保全、教育機関との連携】

No.33 熊本県 熊本市
天明環境保全隊

【6次産業化、農福連携、グリーン化】

No.34 熊本県 小国町
社会福祉法人小国町社会福祉協議会



東海

【6次産業化、地産地消】

No.16 岐阜県 恵那市
株式会社恵那川上屋

【6次産業化、農泊、棚田保全】

No.17 愛知県 岡崎市
岡崎市めかたブランド協議会

【6次産業化、農福連携、地産地消】

No.18 愛知県 犬山市
株式会社ココトモファーム

【地産地消、伝統の継承】

No.19 愛知県 大府市
高木 幹夫

北陸

【農村環境・景観保全、スポーツとの連携、デジタル化】

No.13 新潟県 十日町市
NPO法人越後妻有里山協働機構

【6次産業化、農村環境・景観保全】

No.14 石川県 羽咋市
株式会社神子の里

【農業、ジビエ】

No.15 石川県 白山市
里山総合会社山立会

- : 「ビジネス・イノベーション部門」
- : 「コミュニティ・地産地消部門」
- : 「個人部門」

1 オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会



— オホーツク地域産業と触れ合う新しい旅の形 —



ガイド講習会により育成されたガイドメンバー



国定公園内網走湖の自然とカヤック体験

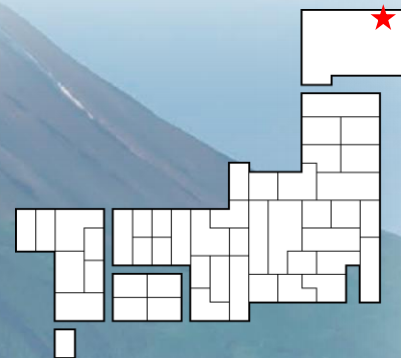


市内小学校総合学習 コンバイン見学

コミュニティ・
地産地消部門

農業・水産業

農泊



あぼしりし

所在地：北海道 網走市

概要

● 交流拠点「Connectrip（コネクトリップ）」を網走湖畔に開設。地元のバス会社や料理人、生産者等と連携し、農漁業体験や景観、地元の食材の料理が一度に楽しめるレストランバスを運行するなど、異業種間の連携強化の後押し。

● ガイド育成講座を地域住民を主な対象として開催することで、地域産業を発信できる兼業ガイドを育成し、地域の雇用を創出。

● 平成29年度に始まった地域産業ガイドは、令和3年度時点で26人まで増加。

● 「Connectrip」で提供している体験コンテンツの参加者数が、120人（平成30年度）から898人（令和3年度）に増加。市内小中学生を対象にモニターツアーを実施。

成果

かぶしきがいしゃ
株式会社イナゾーフาร์ม

— 未来に農業を繋ぐ農家発ブランド —

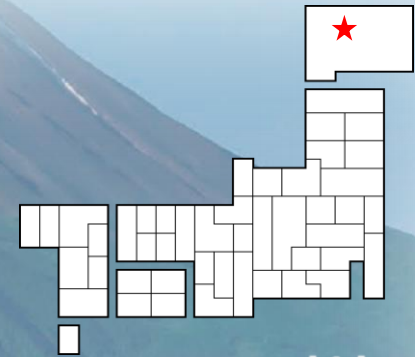


農作物から加工品まで一気通貫ブランド戦略

ビジネス・
イノベーション部門

6次産業化

若者の活躍



所在地：北海道 士別市



有機イナゾートマトのパッケージデザイン

概要

- 唯一無二の商品を作るという気概で平成24年より6次産業化に取り組み、トマトジュースの製造を開始。「イナゾートマト」のネーミングで農家発ブランド商品として自ら販路開拓。
- 10年以上に渡り、毎年10人程の大学生を中心に、若者が農業・農村での暮らしに触れる体験機会（農業インターンシップ）を提供。

成果

- イナゾートマトの売上は、約1,100万円（平成29年度）から約2,500万円（令和3年度）と2倍強に増加。
- 有機JAS認証を取得し、透明な見た目の新商品「有機トマトジュースクリア」は、品質と新規性・独創性・話題性から複数の賞を受賞。



インターンの学生と一緒に都内マルシェに出店

3

えにわ

きょうどうくみあい

恵庭かのな協同組合

— 生産者と消費者を安心して結ぶ —



農畜産直売所「かのな」店内



今朝もぎトウモロコシ

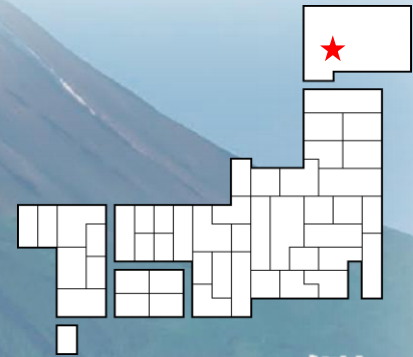


花のまち えにわの切り花

ビジネス・
イノベーション部門

地産地消

デジタル化



えにわし
所在地：北海道 恵庭市

概要

- 販売状況をリアルタイムで生産者に発信する欠品防止システムを導入し、顧客の満足度向上や農業者同士の連携を強化。
- 地場産にこだわる直売所として、農商工連携による商品開発や地域イベントでの販売・PR、また、保育園への食材提供等の行政と連携した食育推進活動を実施。

成果

- 直売所の来客数は、初年度の約9万人（平成19年度）から約35万人（令和3年度）に増加。令和2年度からは通年営業が可能になり、年間を通じて地域に地元産の食材を提供。
- 生産者と消費者の交流に取り組み、地元農畜産物の消費拡大と農家経営の安定を図り、地域経済の活性化に貢献。

一般財団法人丘のまちびえい活性化協会

— 農業×観光の融合 持続可能な美しい村づくり —



映画のワンシーンのような麦畑での麦刈り体験



パッチワークの丘を歩くフットパス

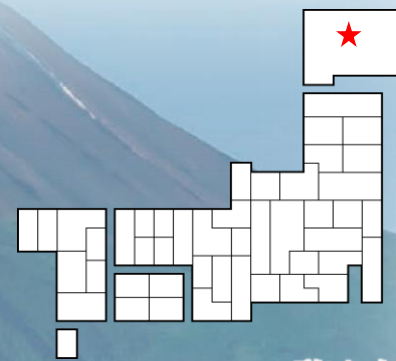


じゃがいも掘り体験
(カラフルじゃがいもの宝さがし)

ビジネス・
イノベーション部門

農泊

農村環境・景観保全



所在地：北海道 美瑛町
びえいちょう

概要

- 農家に代わって畑の大切さを伝えるガイド（インタープリテーションガイド）の案内で、生産農家の畑をリアルに体感できる各種プログラムを実施。
- 景観と農と食を結びつける本物体験型プログラムを展開。観光マナー問題の解決に向け、農泊事業を通じ生産者と一体となって実施。

成果

- 体験プログラムの申込件数は72人（平成30年度）から416人（令和3年度）と、コロナ禍でも着実に増加。
- 農家に代わって畑の大切さを伝えるため養成したインタープリテーション認定ガイド数は、2人（平成30年度）から10人（令和3年度）に増加。

5 ユキノチカラプロジェクト協議会

きょうぎかい



— 豪雪をまちの力に変える「ユキノチカラ」 —

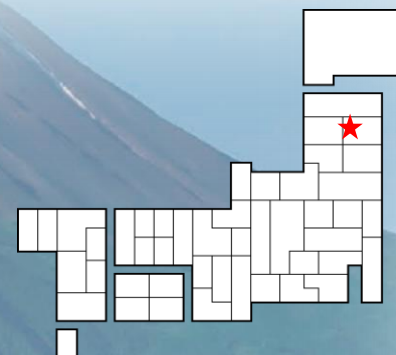


雪文化を体験する「ユキノチカラツアー」

ビジネス・
イノベーション部門

6次産業化

関係人口の創出



にしわがまち

所在地：岩手県 西和賀町



ユキノチカラブランド商品群

概要

- 役場、信金、デザイン振興会等と連携し、デザイン力で「魅力」を発信。プライベートブランドとして販売した商品数は30種類以上。
- 焼き菓子を地域全体での販促営業により地域ブランド化。2021ふるさと名品オブ・ザ・イヤーのモノ部門で地方創生担当大臣賞受賞。

成果

- 「豪雪」をデザイン力で「魅力」へ変えるという新たなコンセプトは、地域ブランドとして応援・共感するファンの増加に貢献。
- 令和3年度におけるユキノチカラ商品の売上は、年間約7,200万円に上るほか、雪を詰めたギフトの話題性によりメディア掲載数は5件（平成27年度）から22件（令和3年度）に増加。



地元高校と協働した社会学習「魅力発見ラボ」

6 一般社団法人はなやまネットワーク



— 自分達でできることは、自分達でやろう！ —



移動販売車で買い物支援



移住体験で伝統食を囲み交流

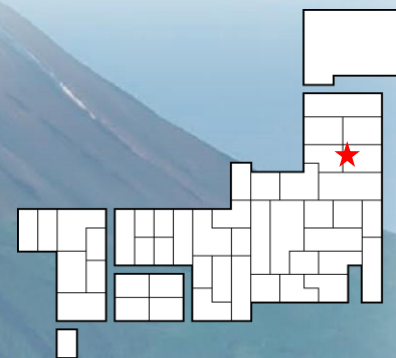


空き家片付け隊

コミュニティ・
地産地消部門

農村文化体験

移住・定住



くりはらし

所在地：宮城県 栗原市

概要

- 高齢者の生活支援のため、地元商店と契約して移動販売を実施。
- 地域おこし協力隊や地域内の女性が中心となり、地域の農業体験・伝統文化の紹介を行う「かがやく女性たちと過ごす花山いなか時間プログラム」を平成29年から毎年実施し、関係人口の増加と移住促進に貢献。

成果

- 移住者数が、10人（平成29年度）から26人（令和3年度）に増加。
- 高齢者の買い物環境の維持と地元商店の存続支援のため実施した移動販売による買い物支援が、高齢者の安否確認の一部につながり地域貢献。



— 身も心もホッとさせるみんなの郷土を目指して —



オクトパス君で人気の法人とファンの交流会開催



手入れした竹林、2階は干柿の干場



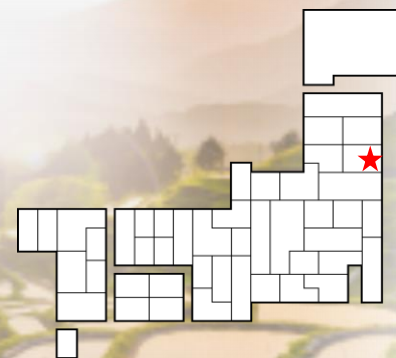
美味しいたけのこをいつでも食卓へ

個人部門

地産地消

関係人口の創出

6次産業化



まるもりまち

所在地：宮城県 丸森町

概要

- 約130年続く食品・生活雑貨店の経営を原点とし、ミニ道の駅をコンセプトに「いなか道の駅 やしまや」を運営。出張販売を行い地区内の買い物困窮者を支援。
- 干し柿（ころ柿）をビターチョコでコーティングした「あなたのハートをいちころチョコ」を開発・販売。キャラクター「オクトパス君」との連携によるPR活動等も実施。
- 直売所の売上が約1,400万円（平成29年度）から約1,900万円（令和3年度）に増加。来客数は約2.7万人（平成29年度）から約3万人（令和3年度）に増加。
- たけのこ掘り・干柿作り体験の受入など、他地域と連携しながら多様なチャンネルを活用し地域全体の交流を促進。

成果

8

かぶしきがいしゃの 株式会社やまもとファームみらい野



— 住民参加型による持続可能な新しい農業経営 —



紅はるかシルクスweetを丸干しと平干しで4種製造



機械管理で、甘みが強い大玉とまをを安定出荷



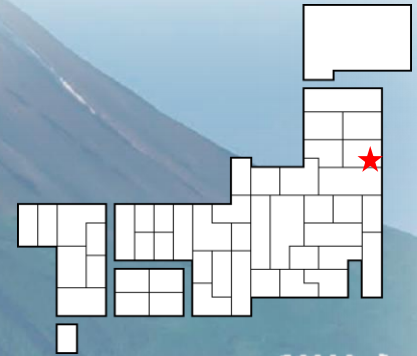
干し芋加工は手作業

ビジネス・イノベーション部門

復興

6次産業化

輸出



やまもとちょう

所在地：宮城県 山元町

概要

- 耕地面積の約8割が津波被害を受けた山元町で、地域農家と協力し営農組合を設立。平成29年5月に「復興創生とまと」として初出荷し、令和3年からはさつまいもの輸出を開始。
- 被災した地域住民の生活を支え続けるため、ICTによる環境制御システムを活用した水耕栽培を実施。ほ場別、品種別、作型別に毎日の作業データを蓄積し、毎週の定例会でデータを共有。
- 売上は約2.1億円（平成29年度）から約3.7億円（令和3年度）に増加。
- 事業拡大に伴い90名の雇用を創出。被災後のさつまいも農地の作付面積は12ha（平成29年度）から17ha（令和3年度）に増加。また、令和3年度のさつまいも輸出量は45tを実現。

成果

稲作本店



9

『米を作るな、未来を創れ!』

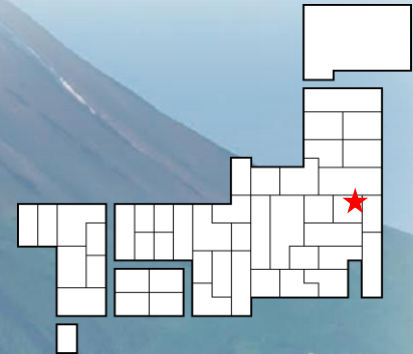


田んぼでカフェの様子

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消



なすまち
所在地：栃木県 那須町



代表者夫婦、稲穂の田んぼで

概要

- 「田んぼの価値最大化」を目指すとともに、「お米農家」から「お米専門ブランド」としての定着に向けた活動を実施。
- クラウドファンディングを活用し「田んぼでカフェ」の開催や米粉ワッフル・ポン菓子「イナポン」などの製造・販売を実施。田んぼの魅力を発信しながらビジネスとして成長。

成果

- 米の直販数は3t（平成30年度）から30t（令和3年度）の10倍に増加するとともに、インターネット販売・卸販売・直販売上は約2,500万円（平成30年度）から約4,000万円（令和3年度）に増加。
- 秋の収穫後の田んぼをキャンプに活用するなど、誰でも田んぼにアクセスできる仕組みをサービスとして展開。



田んぼでキャンプ

きよなん株式会社

— 新たな家業を創る・地域クラフト製造業 —



クラウドファンディングによる燻製肉のPR・クロスセル



少量・多種を活かしたコラボ商品開発

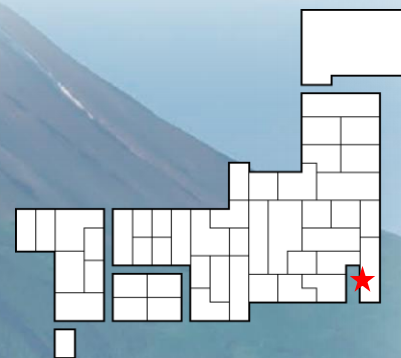


ブランドロゴと定番ビール5種

ビジネス・
イノベーション部門

雇用

地産地消



きよなんまち

所在地：千葉県 鋸南町

概要

- 地元農家から仕入れる副原料でクラフトビールを開発。ラベルに仕入れ先の農家の名前を記して、観光・宿泊・飲食店等に販売。
- 「地域発クラフトビール×桜燻製ベーコン」でブランド確立・広域販売。地域内循環や地域の雇用に貢献。

成果

- インターネット販売・店頭・広域販売を強化し、クラフトビールの売上が約400万円（平成29年度）から約2,200万円（令和3年度）に増加。
- コロナ禍でネットワークを得て、連携セット商品のインターネット販売や民間事業者仲間づくりで農商工を「つなぐ」役割として貢献。

稲倉の棚田保全委員会

－ 眺めるだけじゃない、カカワレルタナダ －



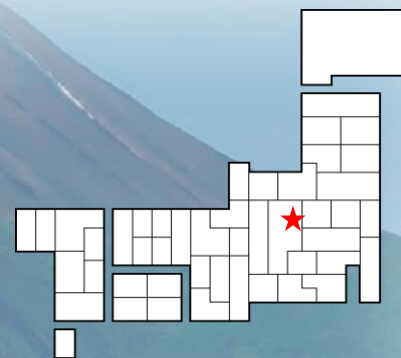
秋の田んぼでキャンプ風景

コミュニティ・
地産地消部門

農村文化体験

棚田保全

農村環境・景観保全



うえだし

所在地：長野県 上田市



黄金色の棚田 みのりの秋

概要

- 平成15年に周辺の自治会や市、JAと連携して設立。棚田の保全・多面的機能向上のため、五穀豊穰等祈念に松明を持って歩く「ししおどし」の開催・小中学生の農業体験受入など多種多様な取組を実施。
- 「棚田オーナー制度」導入のほか、地元酒造会社と連携した「酒米オーナー」など消費者ニーズに合わせたコースを展開。

成果

- 農閑期の棚田を有効活用した「棚田キャンプ」を平成29年から継続的に開催し、棚田の景観・地形等を生かした体験・交流の機会を創出。
- 棚田米オーナー等の総数は70組（平成29年度）から96組（令和3年度）に増加。



春のお田植えまつり（オーナーと）

株式会社 Wakka Agri

- 輸出米を軸にした新しい街づくり -



棚田における荒廃農地を再生、集落の人達と田植えを実施



地元住民の正社員化などの雇用の創出を実現



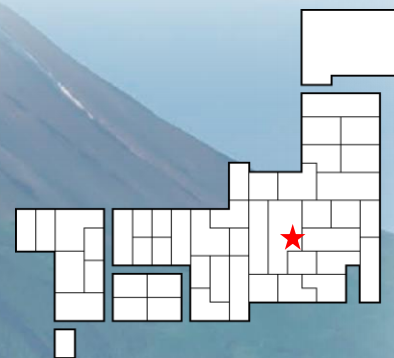
再生した古民家で様々なイベントを企画

ビジネス・
イノベーション部門

輸出

棚田保全

雇用



いなし

所在地：長野県 伊那市

概要

- 「海外コメ市場へのマーケットイン」を軸とした荒廃農地の再生と無農薬米の生産。
- 荒廃農地の増加・担い手不足といった農山漁村の課題に対し、輸出市場開拓により解を見いだす取組を実施。

成果

- 海外市場に目を向け、香港・シンガポール・台湾・ハワイ・ニューヨークでPR活動を実施し、令和3年度は15tの輸出を達成。
- 荒廃農地の再生面積は1ha（平成29年度）から10ha（令和3年度）に増加するとともに、他地域への横展開に必要な再生技術のノウハウを蓄積。

NPO法人越後妻有里山協働機構

－ 棚田×アート×多様な人材による地域振興 －



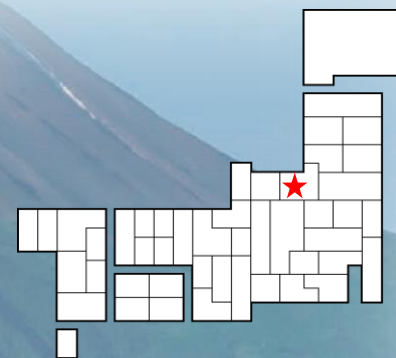
地元の方に指導してもらい田植えをする

コミュニティ・
地産地消部門

農村環境・景観保全

スポーツとの連携

デジタル化



とおかまちし

所在地：新潟県 十日町市



ドローンを利用した農薬散布

概要

- 新たなライフスタイルの提案、女子サッカー選手など多様な人材による棚田保全、アートによる地域活性化に寄与。
- ドローン、水位センサー等のスマート農業の導入により作業負担の軽減。棚田オーナー制度で都市部と地元住民の交流の機会を展開。

成果

- 全国リーグを目指す女子サッカーチーム「FC越後妻有」をつくり、女子サッカー選手が農業の担い手となる一方で、サッカー教室や講演を実施し多数のメディアに掲載され活性化に寄与。
- 会員口数は774口（平成29年度）から919口（令和3年度）に増加。



稲刈りイベント参加者との記念撮影

株式会社神子の里



— 商業の仕組みで日本の原風景の根底を守る！ —



神子原米のブランディング（清酒・味噌・酢等）



やりがいにつながる産直機能と販促

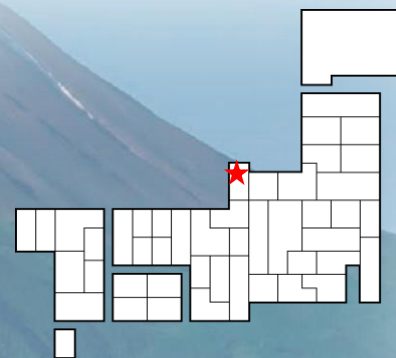


見守り・配達・配食「神子デリ」の冷蔵配送車

コミュニティ・
地産地消部門

6次産業化

農村環境・景観保全



はくいし
所在地：石川県 羽咋市

概要

- 地域の特産品に付加価値をつける自社商品の開発や、山間部の農地を守るため、法人として営農も実施。
- 離農が進む中山間地域において棚田を守る取組として、「神子原米」のブランド化を進め、ローマ教皇への献上などにより認知度が向上。

成果

- 特産品販売額は約6,700万円（平成29年度）から約7,600万円（令和3年度）に増加。
- 令和3年度より地域内での宅配サービス「神子デリ」を開始し、地域における暮らしの支援として、徐々に販路を拡大。

里山総合会社山立会

— かせぐ！里山専門の総合会社つくりました —



特大サイズの“でけなめこ”が自慢



荒廃農地での通年放牧。
羊ふれあい体験も

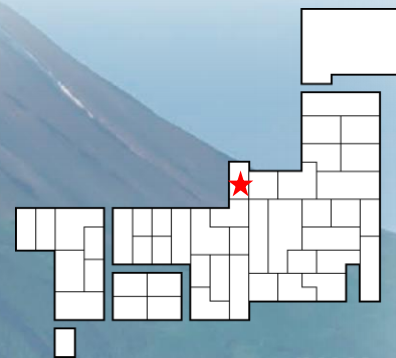


ジビエのクラウドファンディングに挑戦

ビジネス・
イノベーション部門

農業

ジビエ



所在地：石川県 白山市
はくさんし

概要

- ビジネスの力で里山を活性化するために、里山における多角経営と、視察研修等による情報発信を実施。
- 菌床なめこ生産を中心に、ジビエ販売、羊の飼育・販売、食堂など多角経営によって経営力を強化。

成果

- 羊の新ブランド肉の開発につながったほか、羊放牧やジビエ普及による里山の景観・環境保全にも貢献。
- 経営基盤となっているなめこの売上は約90万円（平成30年度）から約3,600万円（令和3年度）に増加。

株式会社恵那川上屋



— おかしなトマトが持続可能な地域を創る —

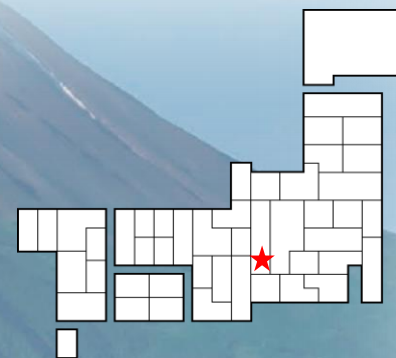


トマト栽培ハウス内観

ビジネス・
イノベーション部門

6次産業化

地産地消



えなし
所在地：岐阜県 恵那市



恵那川上屋の売場

概要

- 栗の農閑期栽培の高付加価値トマトと、栗・野菜の残渣を活用した商品開発で地域・農家が儲かる仕組みを構築。
- 菓子屋ならではの取組として「お菓子の代わりに食べられる」、「素材の甘さだけでそのままお菓子として使える」をコンセプトとして甘さのみを追求したフルティカトマトの栽培を開始。

成果

- お菓子の代わりのおやつとしてのトマトの購入者が増え、直売所は毎日朝から行列の状態となり地域の自慢作りと活性化に貢献。
- 60歳以上の近隣住民を中心に新たな雇用を創出。



おかしなトマト関連商品

岡崎市ぬかたブランド協議会

— ひと・水・緑が輝く里ぬかた —



おかざきかき氷街道出店者のひとつ、農業大学校との連携



ぬかたブランドをPR



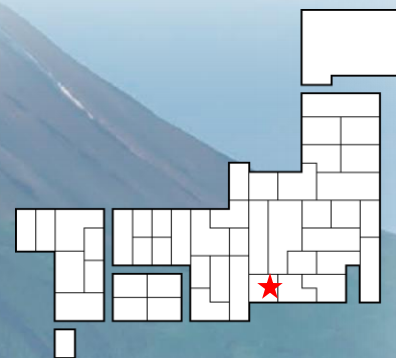
千万町棚田を核とした地域振興活動

コミュニティ・
地産地消部門

6次産業化

農泊

棚田保全



所在地：愛知県 おかざきし
岡崎市

概要

- 平成30年に地元の商工会、森林組合、大学、市やJA等で協議会を設立。地元の農産物と名水を使用したかき氷、特産の鮎、棚田といった地域資源ごとに部会を設けて磨き上げ、観光コンテンツとしても提供。
- 地域の農林水産物・加工品に「ぬかたブランド」マークを表示。周遊マップの作成やYouTube等で発信。

成果

- 農林水産物の新商品・リニューアル商品の売上は約900万円（平成30年度）から約4,100万円（令和3年度）に急増。
- かき氷の販売数は約6,300杯（平成30年度）から約2万杯（令和3年度）に増加。

株式会社ココトモファーム

- 農商工福の連携により障害者の居場所を創る -



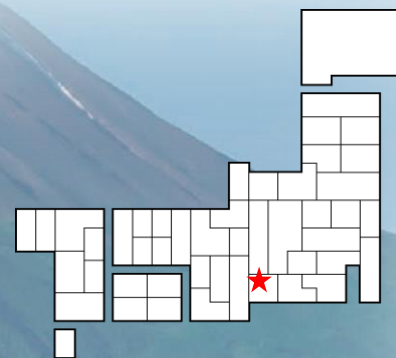
自家製米粉グルテンフリーバウムクーヘン

コミュニティ・
地産地消部門

6次産業化

農福連携

地産地消



いぬやまし

所在地：愛知県 犬山市



書籍の発刊



桃太郎マルシェ

概要

- 米の生産からバウムクーヘンの製造・販売までを自社で一貫して実施するなど、6次産業化をベースにした農福連携に取り組み、障害がある人もない人も同じ賃金で雇用して所得向上を実現。
- JA西三河と連携して地元農産物を使ったメニューを提供するほか、名古屋鉄道と連携して犬山市桃太郎神社で「桃太郎マルシェ」を共催。
- 直営店舗とインターネット販売の売上は約3,200万円（令和2年度）から約2.3億円（令和3年度）に急増。
- 犬山市シルバー人材センターとのコラボ店舗の運営や、シルバー会員と障がい者の農業を通じた交流の輪の拡大に貢献。

成果



農福連携で米を生産



あいち伝統野菜の農業体験



小学生向けに教本を無償提供

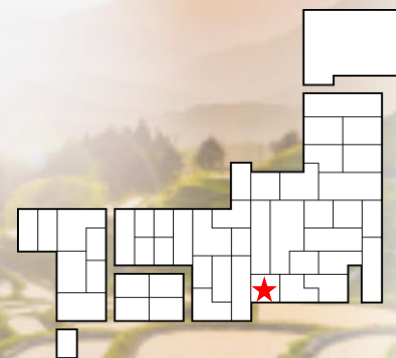


保育園児による播種作業

個人部門

地産地消

伝統の継承



おおぶし

所在地：愛知県 大府市

概要

- 昭和50年代、地元の在来タマネギから播種作業を始めて40年以上、種苗会社が扱わない「あいちの伝統野菜」を栽培・播種。
- 「次世代につなぐ採種作業」をテーマに講座・講演・食イベントを通じて「あいちの伝統野菜」の普及活動を実施。
- 10坪から始めた荒廃農地の借受は約300坪に増加。愛知県認定の伝統野菜の栽培・採種は21品目35品種に到達。
- 県内の飲食店をあいちの伝統野菜を「食べられるお店」、「買えるお店」、「学べるお店」に認定する制度を推進。
- 日本伝統野菜推進協会と連携して小学生向け教本を作成し、地域の小学校に無償で提供。

成果

伊根浦地区農泊推進地区協議会



『泊食分離で船屋群が滞在エリアへ変貌』



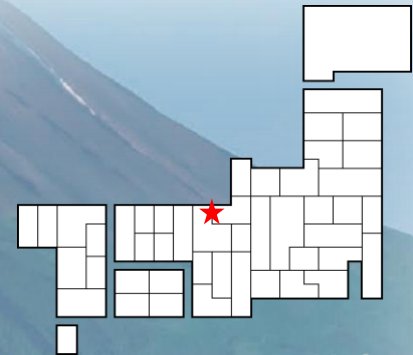
若狭湾に沿って230軒が立ち並ぶ「舟屋」

ビジネス・
イノベーション部門

農泊

農村文化体験

地産地消



所在地：京都府 伊根町



舟屋を改修したモデル宿泊施設



小さなかご網漁「もんどり」体験

概要

- 地域内に230軒が立ち並ぶ舟屋を活用した宿泊施設と食事施設を整備。宿泊と食事を別施設で提供する「泊食分離」の実現によって宿泊施設の開業を促進。
- 町、酒蔵、水産関係者、交通事業者や金融機関等と連携し地域全体での農泊を推進。個人宅での小さな漁業「もんどり」、漁具づくり、刺身づくりなどの体験を提供。

成果

- 地域内の宿泊施設の売上が約8千万円（平成29年度）から約1.2億円（令和3年度）に増加。
- 地域内の宿泊施設数は、15軒（平成29年度）から31軒（令和3年度）に増加し、延べ宿泊数は約6千人（平成29年度）から約8千人（令和3年度）に増加。

東播用水土地改良区

— 地域と共に守り・活かし100年後につなぐ —



淡山疎水・東播用水親子学習会（円筒分水工）



伐採した竹の植木鉢にドングリを播種

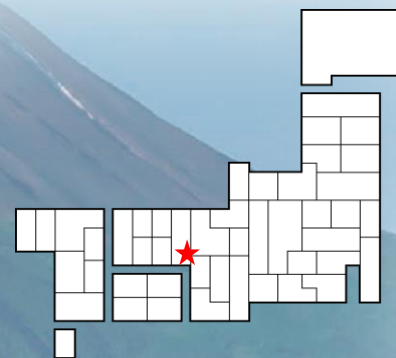


神戸ワイン専用ぶどうの収穫体験

コミュニティ・
地産地消部門

農村環境・景観保全

教育機関との連携

所在地：兵庫県 みよし 三木市

概要

- 23路線、372kmの用水路を活かした東播用水源流ミニツアーを平成4年から開始
- 現在は伐採した竹の植木鉢にドングリを播種する里山保全活動、親子学習会、呑吐ダム探検隊、神戸ワイン専用ぶどうの収穫体験等のほか、誰でも参加できる「淡山疎水・東播用水ふれあいバスツアー」を実施。
- 小学校と連携し、農業水利施設の現地見学を通じて水の大切さ・東播用水の役割や地域の成り立ちについて、こども達に普及啓発。
- 「淡山疎水・東播用水未来遺産運動基本計画」を策定し、多様な取組を通じて広く地域内外の住民に対して保全意識の理解を醸成。

成果

有田川町 × 龍谷大学

— ぶどう山椒の発祥地を未来へつなぐ —



農家、龍谷大学、企業、町の交流風景



開発した商品をプレゼンする龍谷大学生



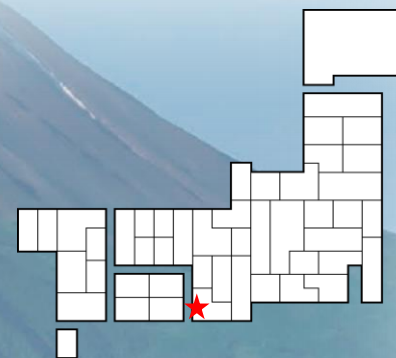
若手農家が就農希望者を受入

コミュニティ・
地産地消部門

企業との連携

教育機関との連携

若者の活躍

所在地：和歌山県 ありがわちょう
有田川町

概要

- 有田川町と、ぶどう山椒の産地消滅の危機に立ち向かう町の姿勢に共感した龍谷大学が包括的連携協定を締結。農家、地域住民、企業等を巻き込んで産地振興を実施。
- 農家の平均年齢が80歳近い地域で学生達が宣伝活動を行い、集めた消費者の声を情報誌にまとめ農家へ配布。企業等と連携して開発・販売した商品の売上の一部は山椒の苗木購入に充当。
- 市場流通量が少ない花山椒をミシュラン3つ星料亭に販売開始。
- 龍谷大学との連携をきっかけとした、ぶどう山椒農家との交流人数は、5人（平成30年度）から100人（令和3年度）に増加。

成果

NPO法人 bankup

- おもしろがろう、鳥取 -



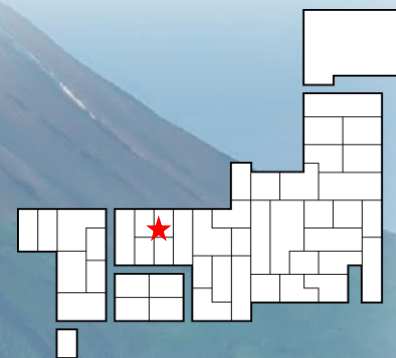
ボランティア活動による鳥取市上地棚田の水路清掃

コミュニティ・
地産地消部門

移住・定住

農村環境・景観保全

若者の活躍

所在地：鳥取県 とっとりし
鳥取市

大学生の派遣・企画・移住エリア

概要

- 職員7人と大学生ボランティアスタッフ107人が構成員。平成14年から大学生ボランティアを農村へ派遣し始めて20年以上継続して実施。
- 交流企画や地域特産の加工販売を行う「農村16きっぷ」、米生産から販売まで行う「田舎戦隊三徳レンジャー」等と、地域活動のプロジェクトをおもしろいネーミングで運営。

成果

- 大学生ボランティアを集落へ派遣した回数は77回（令和3年度）、農村ボランティア派遣のべ人数は408人（令和3年度）。
- 「農村16きっぷ」、「田舎戦隊三徳レンジャー」とともに、食と農林漁業大学生アワードで農林水産大臣賞を受賞。



ボランティア活動によるいのしし電気柵の設置



— 地域に開かれた、200年後も残る牧場づくり —



来場者に牛の説明をする大石氏



ダムが見える放牧地からの風景



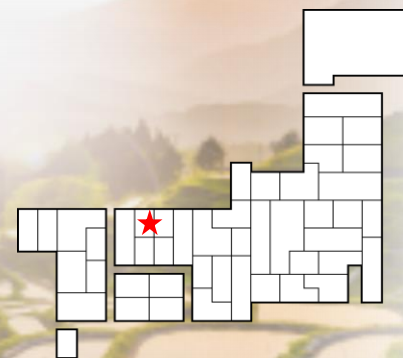
幼稚園や小学校の遠足受入

個人部門

農村文化体験

グリーン化

食育・教育



所在地：島根県 奥出雲町
おくいずもちょう

概要

- 牛の放牧が創り出す風景に憧れて牧場として省力的に山を管理し、多目的に利用できるフィールドとして整備するとともに小頭数飼育による適正な量の堆肥を土地に還元。
- バター作り体験などの観光メニューの提供と地域の保育園、幼稚園及び小学校を受け入れて牧場で「牛のいる風景」を解放。

成果

- 農業生産額は約2,800万円（平成29年度）から約3,600万円（令和2年度）に増加。
- バター作り体験等の来場者数は1,036人（平成29年度）から1,533人（令和3年度）にコロナ禍を経ても増加。

瀬戸内かきからアグリ推進協議会

— 瀬戸内の海とつながる、おかやまの農畜産物 —

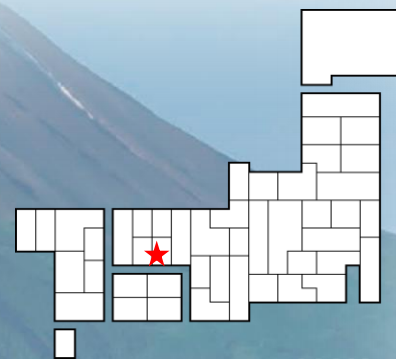


全国で排出される年間の牡蠣殻は約16万トン

コミュニティ・
地産地消部門

企業との連携

グリーン化



所在地：岡山県 岡山市



瀬戸内
かきから
アグリ

牡蠣殻のミネラルで良質な里海米を生産



概要

- 漁業関係者のみならず地域としての処理課題であった瀬戸内海で水揚げされた牡蠣の殻を加工粉碎して、農畜産物の生産・飼育に活用した農業を実施。
- 牡蠣殻を生産者の手によって資源循環させた農畜産物を生産し「里海米」「里海卵」など生産物に「里海」を冠して販売。

成果

- 里海米の生産・販売数は、248t（平成29年度）から2,584t（令和3年度）に急増加。
- 里海米生産での牡蠣殻の再利用量は、42t（平成29年度）から434t（令和3年度）に増加。



アマモ再生活動への参画

上籾みろく農場協議会

— 「黄金の谷」と呼ばれた棚田を今に蘇らせる！ —



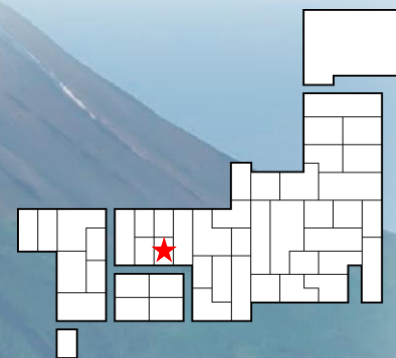
棚田が見渡せるレストラン（棚田テラス「籾庵」）

ビジネス・
イノベーション部門

6次産業化

棚田保全

農村環境・景観保全



所在地：岡山県 くめなんちょう 久米南町



藁アート・龍神（協力：藁アート J A P A N）

概要

- 平成26年に上籾自治会員（60人）を中心に上籾みろく農場協議会を設立。
- 企業と共同で地元の農産物を活用し棚田が見渡せるレストランを運営し、地元のお母さん達の組織「上籾しあわせ会」の手作りの特産品やオリジナル商品も販売。

成果

- レストランの売上げが約300万円（平成29年度）から約750万円（令和3年度）に増加。
- 荒廃農地を復元して水田に戻した棚田再生面積は、11,000㎡（平成30年度）から14,000㎡（令和3年度）に増加。



農作業を取り入れた人材研修

川西自治連合会



— 農業による経済循環で田舎暮らしが楽しい里 —



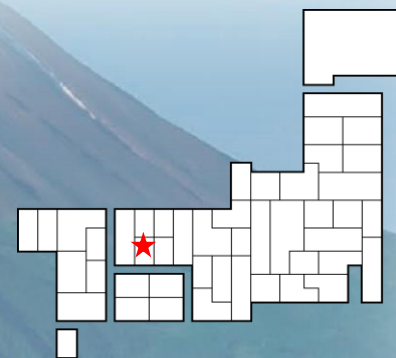
地域と共に開催した郷の駅感謝祭

ビジネス・
イノベーション部門

農業

6次産業化

雇用



所在地：広島県 三次市



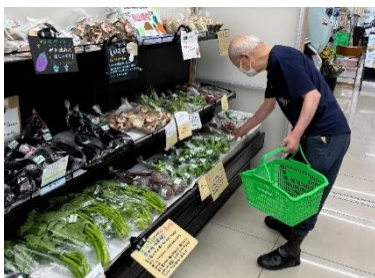
農事組合法人の田植え風景

概要

- 中山間地域である川西地区の荒廃農地の増加の課題に対して農業組合法人と住民出資型の地域運営会社を設立し雇用を創出。
- 小さな拠点である「株式会社西郷の駅」での農村型コンビニエンスストアとしての機能のほか、産直市、加工場、軽食堂も併設し地域住民の生活需要に応じた活動を実施。

成果

- 産直市売上額は約1,700万円（平成30年度）から約1,900万円（令和3年度）に増加。
- 郷の駅（コンビニ、もち加工所、食堂）雇用人数は30人を達成（令和3年）。



郷の駅産直市

かみかつ棚田未来づくり協議会

- オンラインリアル交流を介した集落力づくり -



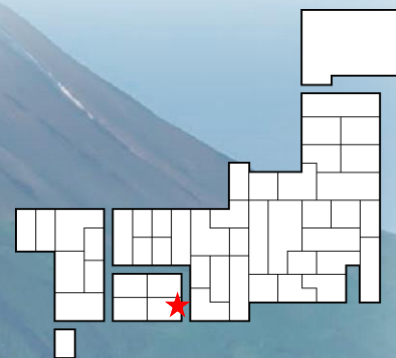
棚田ウェブ談義所

コミュニティ・
地産地消部門

棚田保全

デジタル化

農村環境・景観保全

所在地：徳島県 上勝町
かみかつちょう

全国キッズオンライン交流



- コロナ禍での交流活動の展開としてドラゴンキャッチャーと称して親子を対象にオンラインで檜原の棚田をつなぎアカハライモリの観察会等を実施。
- コロナ禍での交流の場として棚田ウェブ談義所を開催したほか田野々集落の活動スケジュールや役員情報、町内の防災情報にアクセスできる集落DXとして実証実験を実施。
- オンライン交流を含めた棚田交流活動の交流人口は、340人（平成29年度）から15,251人（令和3年度）に増加。
- 棚田ウェブ談義所の参加者数は377人（令和2年度）から1,025人（令和3年度）に増加。コロナ禍においてオンライン交流を通じて町内外の人材との友好関係の構築に貢献。



美しい村24時間オンラインライブ



— 未来のオイスターファーマーにむけて —

技術相談/支援 22道県

種苗出荷 15県

成品出荷 13都県

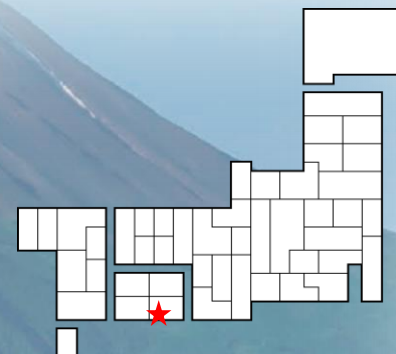


全国のリブルネットワーク

ビジネス・イノベーション部門

水産業

デジタル化



所在地：徳島県 海陽町



美しく身の引き締まったシングルシード牡蠣

概要

- 牡蠣不毛の地と言われていた那佐湾での養殖に成功し、データやアプリを活用して養殖技術の見える化（＝スマート養殖）を図り、養殖技術支援と強い種苗の生産の新規産業を創出。
- IT技術を駆使した新たな水産業への理解醸成に向けて小学校などの教育現場へ出前授業や漁場案内等を実施。

成果

- 「あまべ牡蠣」ブランドで全国へ出荷している牡蠣生産量は、2万貝（令和元年度）から10万貝（令和3年度）に増加。
- 令和3年度には18の地域に技術指導・種苗の提供を行い、牡蠣の生産量拡大に貢献。



地元学生の漁場見学を毎年受入

株式会社山南営農組合



— 限界集落の未来を守る！ 全員参加型営農組合 —



地元農産物の加工品（米粉・佃煮・梅干し等）



地元農産物を提供する農村レストラン

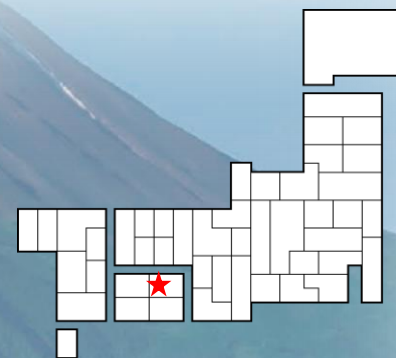


オリジナルの袋で販売する「小蓺米」

コミュニティ・
地産地消部門

6次産業化

農泊



所在地：香川県 三木町
みきちょう

概要

- 山の中の小蓺集落で住民は原則全員参加とする営農組合を設立し、地域ブランド米「小蓺（こみの）米」の生産・販売等を実施。
- 農村カフェの運営に香川大生や地域おこし協力隊が参画。また昔ながらの田舎暮らしが体験できる宿「昭和の宿こみの」で農家民泊を実施。

成果

- 地域内外からの作業受託面積は、17.4ha（平成29年度）から38ha（令和3年度）に増加。
- 日々の農村保全活動の継続を通じて、令和3年度に「つなぐ棚田遺産」に認定。

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部



— ジビエで陸の豊かさを守ろう！ —



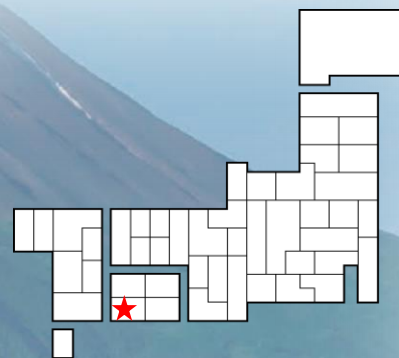
高校生ジビエ・レストラン

コミュニティ・
地産地消部門

ジビエ

森林・林業

若者の活躍



所在地：高知県 高知市

概要

- 高知市役所レストランでジビエ部の活動として高校生ジビエ・レストランの名で販売を実施。高校生が地元のシカやイノシシ肉を原料として商品開発を行い販路拡大に寄与。
- クラウドファンディングによって森林の保護活動の資金を調達し返礼品にジビエ商品を活用。県内のシカの食害が著しい地域で植樹、防鹿ネット敷設作業を実施。

成果

- ジビエ（シカ・イノシシ）の使用量は、20kg（平成29年度）から500kg（令和3年度）に増加。
- 高校生ジビエ・レストランも含めた販売売上が、約5万円（平成29年度）から約200万円（令和3年度）に増加。



クラウドファンディングの立ち上げと
返礼品製作作業



森林の現状把握と保護活動

株式会社四万十ドラマ

— 地元発着型産業作りとSDGsへの取組 —



高知県版HACCPを取得した工場



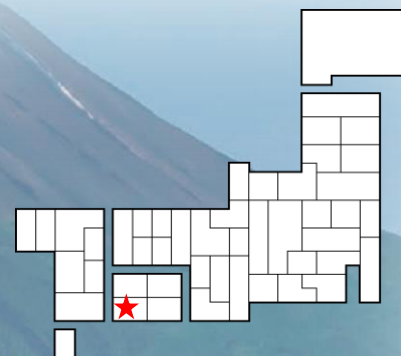
商品の原料となる人参芋と地域の生産者

ビジネス・
イノベーション部門

6次産業化

企業との連携

雇用

所在地：高知県 しまんとちょう
四万十町

概要

- 「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトに地域の6次産業化に取り組み、地域の事業者と連携し芋栽培から商品開発、販路開拓を進め「地域商社」として運営。
- 「しまんと地栗工場」を建設することにより以前より約5倍の製造体制が整い、高知県版HACCP新第3ステージを取得。

成果

- 芋生産量は4t（平成29年度）から24t（令和3年度）に増加。
- 芋の契約農家数は5軒（平成29年度）から21軒（令和3年度）に増加。



テレビで紹介されたお菓子

天明環境保全隊



— 守り伝えよう環境と文化 ～地域、学校、福祉の連携～ —



中学生による農業用水と有明海の水源地の下草刈り



調整池で生き物調査・酸欠魚の救助

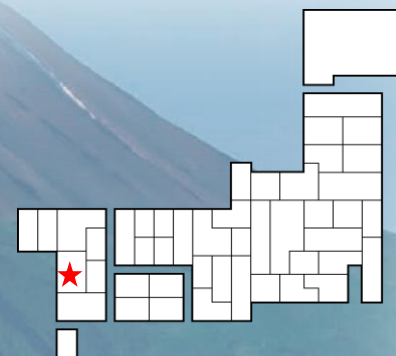


全校で実施する田植え体験

コミュニティ・
地産地消部門

農村環境・景観保全

教育機関との連携



所在地：熊本県 熊本市

概要

- 30集落14団体のべ3,546人の会員で構成される天明環境保全隊を平成19年に設立し、環境保全活動の運営・指導、文化活動を実施。
- こども達に天明の魅力・歴史を伝えるため毎年継続して、小中学校（7校）への出前講座や田んぼの学校の開催、生き物調査を実施するほか、しめ縄作りなどの伝統文化を普及。

成果

- 様々な活動の継続が、地域（人）のネットワークの構築や住民の理解醸成につながり農漁業後継者を創出。
- 令和3年度の清掃、花植、外来水草・タニシ除去等の保全活動参加者数はのべ約4,500人。

社会福祉法人小国町社会福祉協議会



— 小国のゆめ、それは私たちのゆめ —



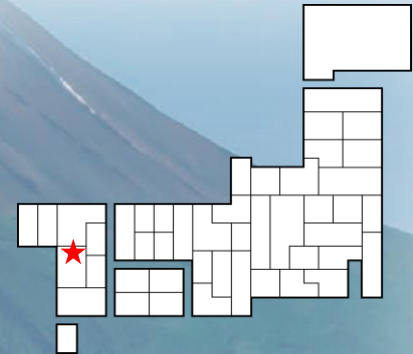
大豆「すずかれん」の収穫

コミュニティ・
地産地消部門

6次産業化

農福連携

グリーン化



所在地：熊本県 小国町



大豆「すずかれん」の加工製品

概要

- 荒廃農地を活用して大豆、米、野菜を栽培し、豆腐などの製品等に加工販売、障がい者の所得向上にも寄与。
- アニマルウェルフェアを意識した平飼い養鶏により、栄養価の高い卵を販売。鶏糞等を荒廃農地に散布、大豆等のおからを飼料にするなど、グリーン化に取り組む。

成果

- 農福連携レストラン「天空の豆畑」の収入は約688万円（平成29年度）から約1,725万円（令和3年度）に増加。
- 地域住民の要望に応え、荒廃農地からの借地面積は2 ha（平成29年度）から9 ha（令和3年度）に増加。



平飼い農園 おぐにん卵



— 農業×観光で課題解決と新たな価値の創出 —



茶畑の中の農泊施設



1日1組限定の古民家宿

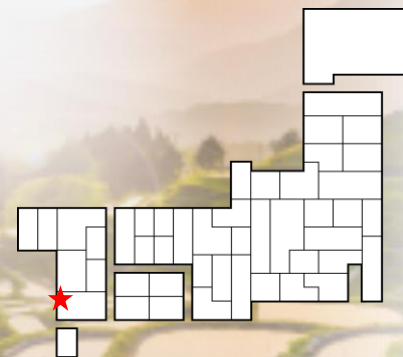


農業体験プログラム：畑旅

個人部門

農泊

農村文化体験



所在地：鹿児島県 みなみきゅうしゅうし 南九州市

概要

- 移住後、茶畑の中の空き家古民家を農泊施設に整備し、地域の農産物・加工商品を販売するとともに観光プログラムを開発。
- まちづくりに取り組むNPO法人の副理事長や福祉法人の理事を務めつつ、女性活躍を意識して人材育成にも注力。

成果

- プライベートを保てる一日一組限定の古民家での宿泊者数はコロナ禍でも260人（平成29年度）から300人（令和3年度）に増加。
- 観光客だけでなく近場の住民のニーズも捉えて、農産品の売上は約36万円（平成29年度）から約120万円（令和3年度）に増加。

一般社団法人 E'more秋名

— 50年後も子ども達が住みたいと思う地域づくり —



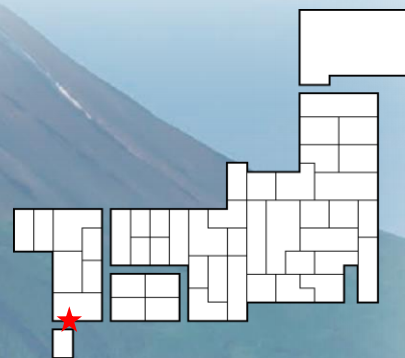
地域語り部による集落歩き体験

コミュニティ・
地産地消部門

農泊

地産地消

関係人口の創出



所在地：鹿児島県 龍郷町
たつごうちょう



看板メニューの“おっかんの旬替わり定食”

概要

- 過疎が進む地域で宿泊事業に取り組むとともに学生インターンを住み込みで受け入れて関係人口を創出。
- 地域語り部による集落歩きや島の家庭料理を提供する「あらか食堂」の経営などにより、文化を次世代に継承。

成果

- 地域の主婦が旬の地場産食材で島料理を提供し、若手主婦が調理を補助することで食と暮らしぶりを伝承。
- コロナ禍を逆手に「島民はわざわざ島料理を食べに来ない」という思い込みを覆し、島の暮らしに向き合う姿勢を一層強化。
- 食堂利用者は年間5千名を超え、清掃も含めて12名の雇用を創出。37



インターンシップ生による活動報告会後の交流

株式会社沖縄UKAMI養蚕

— 未来へ紡ぐ小さな村の農福連携と沖縄シルク —



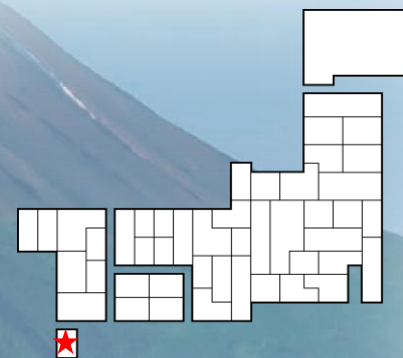
廃校を活用した養蚕の作業場

ビジネス・
イノベーション部門

6次産業化

荒廃農地対策

農福連携



所在地：沖縄県 なまじんそん
今帰仁村



フランスでの自社ブランド商品

概要

● 6次産業化により地域の生物資源「エリ蚕（神樹蚕）」から生産された沖縄シルクをスキンケア商品として加工し、ブランド化してフランスや中国にも進出。

● 養蚕と飼料生産に廃校と荒廃農地を活用するほか、養蚕施設の整備や飼料生産のための高齢者雇用、蛹と繭の選別のための農福連携など、地域の資源と人材を活用。

成果

● 商品売上は400万円（令和元年度）から1,200万円（令和3年度）に、荒廃農地の活用は1.3ha（平成29年度）から2.4ha（令和3年度）に増加。

● 絹産業の非繊維分野へ進出に加えて、高齢者の健康長寿と、就労支援事業所の利用による障がい者の活躍と所得向上にも貢献。



荒廃農地を活用したキャッサバ畑
（エリ蚕（神樹蚕）の餌）